

# 平成30年度租税教育実践成果報告書

学校名 産山村立産山学園

校長名 上田 晃生

## 1 平成30年度の実践計画

### (1) 研究主題

ふるさと産山のくらしを支える税のしくみを知り  
郷土を愛し 村の未来を創造する生徒の育成

### (2) 主題設定の理由

産山学園は現在生徒数111名(小学部76名、中学部35名)、今年度産山小・中学校から産山学園(義務教育学校)に変わり新たにスタートした。昨年から今年にかけて校舎改築中であり、その費用は税金でまかなわれている。産山村は教育に力を入れており、学級費・各種検定受験料・給食費・ヒゴタイ交流派遣生の補助等、多くの場面で税金が使われている。生徒は、教科書や学校が税金で作られたものである事を理解している。消費税や自動車税など、身近なものに税金が掛けられている事も知っている。しかし産山村の財政(歳出と村税の量的関係)については、生徒の多くが知っているとは言えない。このような現状から、租税教育を通して税の仕組みを正しく理解することは、将来の納税者となる生徒が納得して税を負担するために必要であると言える。

熊本県租税推進協議会では、租税教育の目標を「社会公共事業に対する理解を深め、租税についての正しい知識を養うとともに、遵法を精神を培うことにより、将来のより良い県民を育成するために租税教育を実施する」としている。

そこで本校では、租税と租税に関連した学習を通して、税によってふるさと産山や村民一人ひとりが、支えられていることを理解して税への関心を高めるとともに「うぶやま学」の集大成としての「子ども議会」での、「ふるさと産山のより良い未来を考えた提案(税の使い方)」を考える中で、税の役割について深く学べるのではないかと考え、本研究主題を設定した。

本校における「うぶやま学」とは、7年「福祉」、8年「仕事」、9年「未来」をテーマにして、「産山に誇りを持ち、自己の生き方を考える時間」である。また「産山に貢献する活動」や「郷土とのつながりを感じる活動」を通して社会の一員としてのあり方を知る、次の活動も行っており、本研究主題にもつながる。

#### ○7年生「子どもヘルパー活動」

一人暮らしのお年寄り宅や村の高齢者介護施設を訪問して、掃除、身の回りのお世話等をする活動。この取組を通して地域に貢献する体験ができる。

#### ○8年生「職場体験」

産山の事業所において行っている「職場体験」。地域の方々の生き方を学び、つながりを感じるという点で、「うぶやま学」に欠かせない取組である。

#### ○中学部全員でのボランティア活動

中学部生全員で行うボランティア活動は、地域に貢献する活動で、やりがいのある毎年恒例の行事となっている。

### (3) 研究の目標

- ① 租税について興味・関心をもち、租税に関する正しい知識を身につける。
- ② 租税について学んだことを生活と関連づけて、これからの生活に生かそうとする態度を養う。
- ③ 郷土を愛する心を育み、産山村の未来に主体的に関わっていこうとする態度を育てる。

(4) 研究の方法

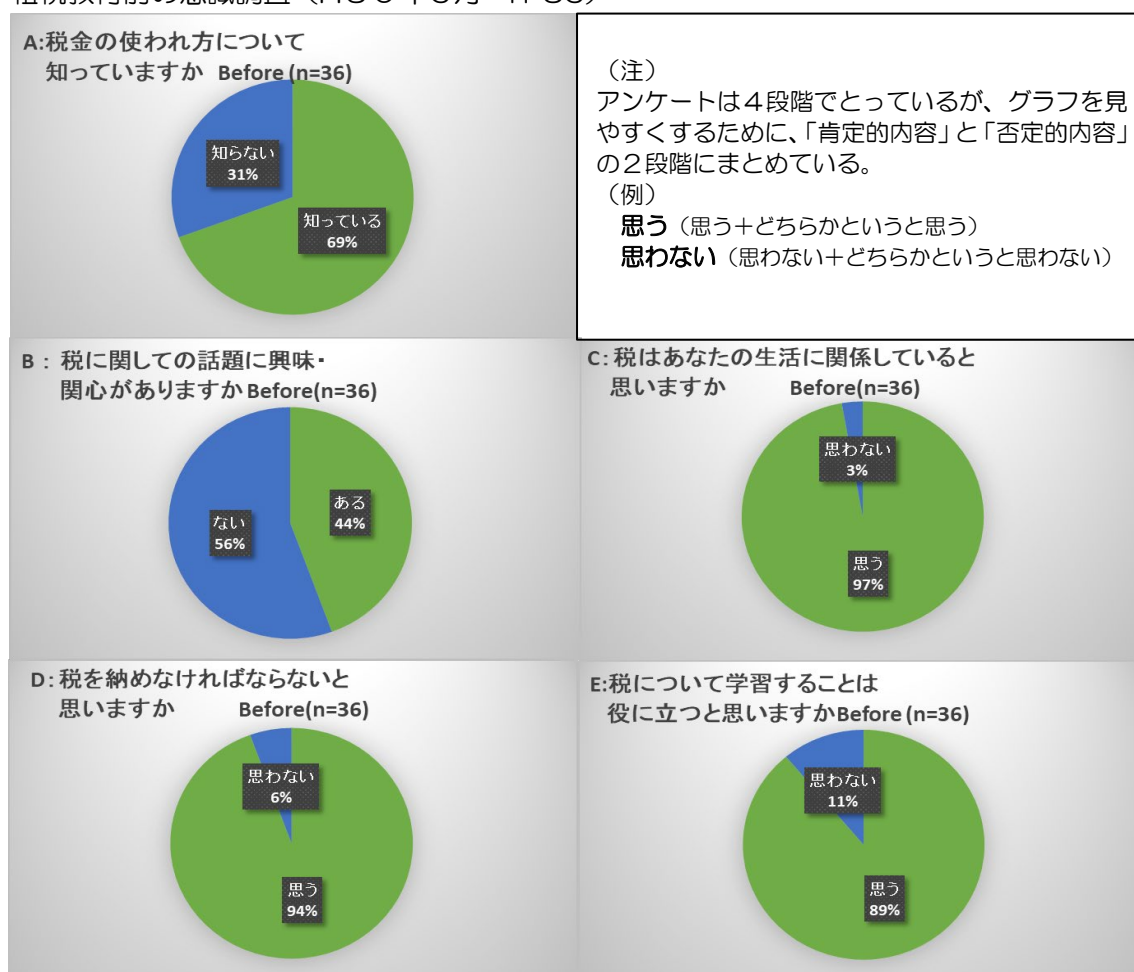
- ①租税に関する意識調査を行い、実態を把握する。
- ②租税教室を通して、税についての意義や役割を理解させ、税についての意識の変容を知る。
- ③税に関する標語や習字の作品作りを通して、税に対する関心を高める。
- ④「子ども議会」での提案に向けて、準備・提案・提案後の振り返り等を通し、自らの意識の変容を図る。

(5) 実践計画

| 実践項目            | 期日     | 内容                                 |
|-----------------|--------|------------------------------------|
| 税に関する事前アンケート①   | 6月10日  | 「租税教育前」の税に対する意識調査を、アンケートで実施する。     |
| 9年生議会傍聴         | 6月19日  | 9年生産山村の議会を傍聴し村の課題を知る。              |
| 租税教室（生徒）        | 7月3日   | 産山村役場職員による租税教室を実施する。               |
| 租税教室後のアンケート②    | 7月3日   | 租税教室後の生徒の意識変化を調べる。                 |
| 税に関する作品募集       | 7月下旬   | 税に関する習字・標語を作成する。                   |
| 子ども議会の提案準備      | 10月下旬  | 村の税金と予算について調査活動を行い、提案準備をする。        |
| 子ども議会で提案とアンケート③ | 10月31日 | 村の将来を良くするために子ども議会で提案する。            |
| 租税教育研究発表会       | 11月12日 | 公開授業とこれまでの租税教育の成果を発表する。            |
| 税に関する事後アンケート④   | 1月15日  | 「租税教育後」の税に対する生徒の意識の変容を、アンケートで確認する。 |
| 租税教室（職員）        | 2月6日   | 税務署の職員による大人向けの租税教室（相続税他）           |

2 実践の具体的内容

(1) 租税教育前の意識調査（H30年6月 n=36）



事前の意識調査の結果は、「A：税金の使われ方」については3割の生徒が「知らない」、「B：税に関する話題に興味・関心がありますか」については5割以上の生徒が「ない」と答えている。「C：税と生活の関係」や「D：納税の義務」については9割以上が肯定的にとらえている。E：税についての学習については「役立つと思わない」生徒が1割ほどいる。これらの実態を改善するために租税教育の必要性がある。

## (2) 租税教室

### ① 租税教室の内容

産山村住民課税務係の職員に来ていただいて、H30年2月と7月に租税教室を行った。税の種類、税に関する映像視聴、生活と税の結びつき（村の財政と税の関係、産山学園に使われている教育費等）、国民の義務、今後の課題、消費税についてわかりやすく説明された。

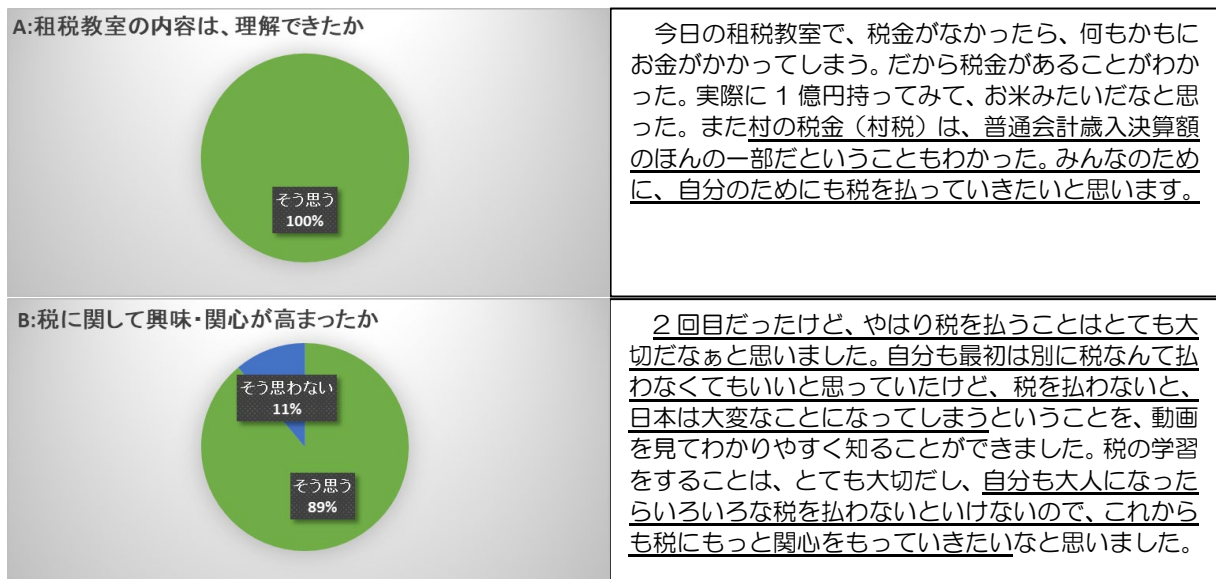


租税教室 H30年2月



租税教室 H30年7月

### ② 租税教室後のアンケート結果と感想（H30年6月 n=36）



## (3) 税に関する作品作り

7月下旬に全生徒に呼びかけて、税に関する標語と税に関する習字に取り組んだ。

日本の 未来をつくる 消費税

税で作ろう みんなの暮らし 明るい未来

税の意味 知って納めて 良い社会

税に関する標語



税に関する習字

(4) 「子ども議会」の取組

① 議会傍聴

産山村議会を実際見学し、議会運営のしくみを知り、子ども議会の提案に備える。

② うぶやま学で村の課題について意見を出し合い、村の未来を良くするためのアイデアをまとめ子ども議会に向けての提案を考える。



子ども議会に向けての準備

③ 実際に子ども議会で提案する。

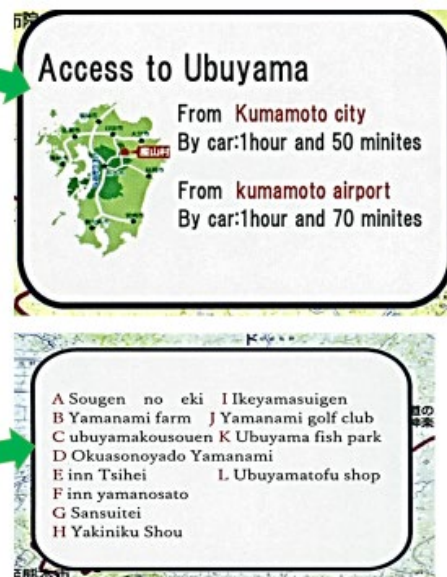
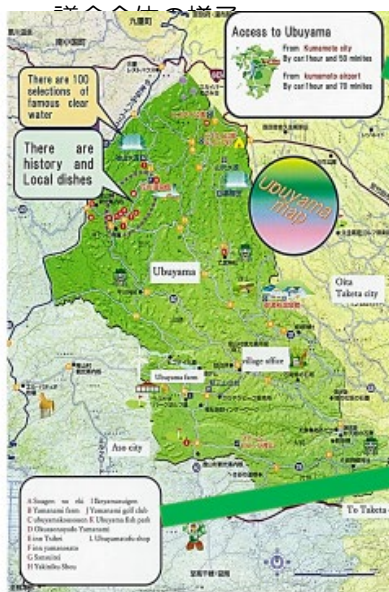
子ども議会の目的は、9年生が自分のふるさと産山を将来どのようにしたいのか、夢や希望を語るとともに、村議会関係者と直接意見交換をすることにより、村民の一員としての自覚をもたせることである。



議長を体験する9年生



提案する9年生



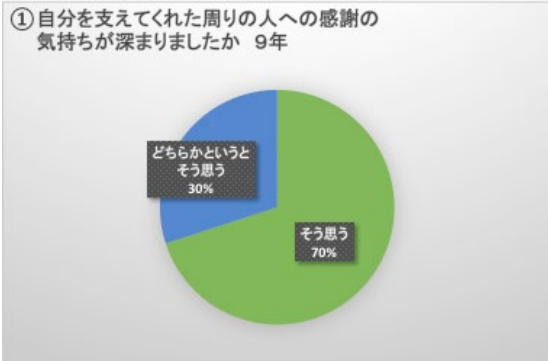
提案した英語版のマップ

イベント班、観光班、租税班の3班が、村の現状について質問し、それに対する村の答弁を聞いた後、自分たちの考えた提案を行った。一つ一つの提案に対して、丁寧に回答をいただくことができ子ども達にとって大変有意義な時間になったと思う。

最後に村長から次のような講評をいただいた。

みなさんは今年税の勉強をされていると聞いております。みなさんは村にとって大切な宝です。その宝に村は投資しなければならないと考えています。これは未来への投資です。将来の産山村が発展するための税の使いみちを考えていかなければならないと、あらためて皆さんの提案をうけて感じたところです。

④ 子ども議会後の生徒の感想とアンケート結果（9年11月 n=10）



子ども議会を終えて、これまで学習し、考えてきたことを発表することができました。また、どの提案にも、深く考えて下さったのでうれしかったです。村長や役場の方の話を聞いて、産山学園や生徒一人あたりに使われているお金のことも知ることができ感謝の気持ちを強く持ちました。また「無駄のないように使っていく」という言葉が印象的でした。村の人達の税金のおかげで、私達が当たり前のように勉強や生活できていることに感謝していきたいです。

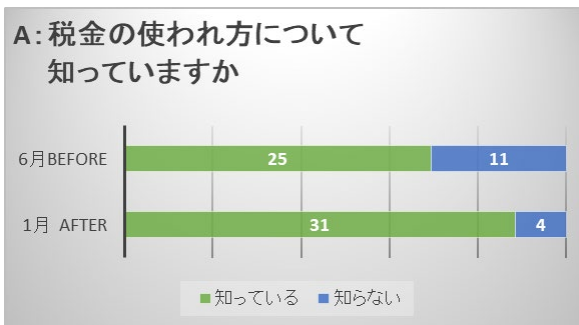


（前半省略）  
産山学園に多くの予算を割いて頂いていることを知りました。役場の方々には、どの提案に関しても前向きに考えていただいてよかったです。中には実現が難しそうなものもあるかと思いますが、1つでも実現できたらうれしいです。また私は知らなかったけど、村もいろいろな取組をしていて、私も村の活性化のために何かしたいと思いました。少子高齢化で若い人が減っているので、私達がしっかり考えていきたいです。

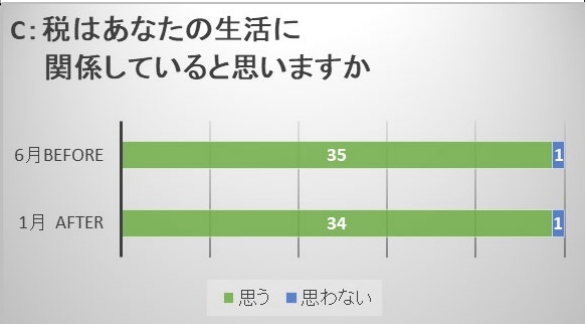
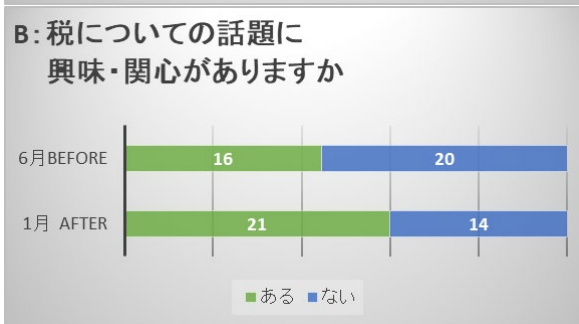
（注）  
アンケートは9年生で子ども議会の提案後（11月）に4段階でとった。全員「肯定的内容」のみだったため、肯定的内容を2段階で表現。

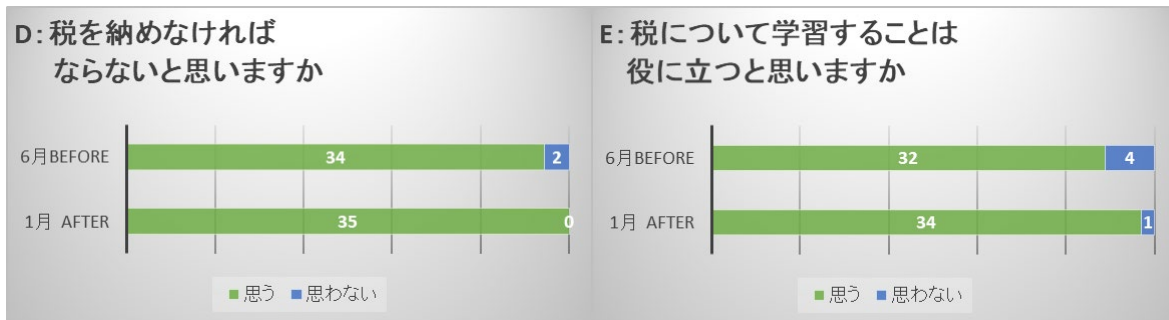
アンケート結果からも分かる通り、「①まわりの人への感謝の気持ちが深まりましたか」の項目は、税による教育費の手厚い補助などもあり、7割の生徒が「そう思う」。また「②産山村を住みよい、より良い村にしたいと思うようになったか」の項目は、8割の生徒が「そう思う」と回答した。

（4） 租税教育前後のアンケート比較（6月 Before n=36 と 1月 After n=35）



（注）  
アンケートは4段階でとっているが、グラフを見やすくするために、「肯定的内容」と「否定的内容」の2段階にまとめている。  
（例）  
**思う**（思う+どちらかというと思う）  
**思わない**（思わない+どちらかというと思わない）





このアンケート結果の比較からわかるように、租税教室、税に関する作品づくり、9年の「うぶやま学」の子ども議会での提案などを通じて、「税のしくみ」「税に関する興味・関心」「将来の納税者としての意識」が学習前より伸びている。もともとの意識が高いのは、先に述べたように昨年度2月に租税教室を行っていることが関係していると思われる。

#### (5) その他の取組

6月の租税教室から時間が経過していたので、1月の全校集会で担当者が日本の国家予算と税収の関係をおさらいするために、次のクイズを考えてさせた。

##### (問題)

- 1 英語で税金は何？
- 2 H30年の日本の国家予算はいくらぐらい？
- 3 国家予算は1万円札を重ねたらどのくらいの長さ（高さ）になる？
- 4 国家予算のうち税金でまかなわれるのは何%？



##### (解答)

- 1 duty, tax
- 2 H30年度 一般会計歳入総額 97兆7128億円＝約 100兆円弱
- 3 100万円＝1cm と考えると  
1000万円＝10cm  
1億円＝100cm＝1m  
10億円＝10m  
100億円＝100m  
1000億円＝1000m＝1km  
1兆円＝10km  
10兆円＝100km  
100兆円＝1000km
- 4 国家予算のうち税金でまかなわれるのは何%？  
H30年度 一般会計歳出額の租税及び印紙税収入 59兆790億円  
約60% (6割)



※参考：H30年度版中学生用租税教育教材『わたしたちの生活と税』

租税教室でジュラルミンケースに入れた1億円を持たせてもらった生徒は「お米みたいだった。」と重さのイメージを語っていた。1兆円ともなると、どのくらいなのか、ほとんどイメージできない。そこで100万円の札束＝1cmと考えると長さでイメージしてもらった。産山学園から平川神社まで5km。野球部の生徒は、新年の必勝祈願で往復走っている。1兆円を重ねると、「野球部が走った距離10kmと同じになる！」と、伝えると笑いが起こった。国家予算はとてつもなく大きいけど、その約6割を税でまかなっていることが印象に残ればと思う。

2月6日に職員向けの租税教室を計画し、相続税等の仕組みについて税務署の職員に説明していただいた。職員が租税教育をきっかけに、税に関心をもち学ぶことは、子どもたちにも良い効果を生むであろう。

### 3 研究の成果

- 租税教室を2月と7月に2回実施したことで、前回学習した内容をもう一度確認し、租税に関する正しい知識を身につけ、税についての興味・関心と納税意識を高めることができた。
- 租税教育を「うぶやま学」の時間に位置づけたことで、租税教室や授業で学んだことを「子ども議会での提案」という形で生活と関連づけて深く考えることができた。
- 租税教室と「子ども議会」の取組で、産山学園の教育費にたくさんの税金が使われている事を知り、感謝の気持ちが深まった。
- 税の仕組みを知り、子ども議会で提案することで、ふるさとについてより考えるようになるとともに、「産山村を住みよい、よりよい村にしたい」と思う生徒が増え、「うぶやま学」の成果が出てきていると考えられる。
- 職員向けの租税教室で相続税等について、税務署職員に説明していただいたことにより、職員の税に対する関心が高まった。